＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

事業所番号	4670300971
法人名	有限会社　なごみ福祉会
事業所名	グループホーム　青い鳥
訪問調査日	平成21年10月7日
評価確定日	平成21年12月19日
評価機関名	特定非営利活動法人ＮＰＯさつま

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	11
1．理念の共有	2
2．地域との支えあい	1
3．理念を実践するための制度の理解と活用	3
4．理念を実践するための体制	3
5．人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1．一人ひとりの把握	1
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1．その人らしい暮らしの支援	9
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営･運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者･職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日　平成21年10月20日

【評価実施概要】

事業所番号	4670300971		
法人名	有限会社　なごみ福祉会		
事業所名	グループホーム　青い鳥		
所在地	鹿児島県鹿屋市古江町796番地3 （電　話）0994－46－3056		

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年10月7日	評価確定日	平成21年12月19日

【情報提供票より】（21年9月5日事業所記入）

(1) 組織概要

開設年月日	平成　18　年　1　月　5　日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	10人	常勤　7 人，非常勤　3 人，常勤換算　9　人

(2) 建物概要

建物構造	木造　造り
	1 階建ての　階　～　1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	18,000　円		その他の経費（月額）	水道光熱費　1日　300　円
敷　金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	150　円	昼食	250　円
	夕食	300　円	おやつ	100　円
	または1日当たり	円		

(4) 利用者の概要（　9　月　5　日現在）

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	4	名	要介護2	3	名
要介護3	2	名	要介護4		名
要介護5		名	要支援2		名
年齢　平均	84.8 歳	最低	68　歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大隅鹿屋病院・まつもと歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿屋市の郊外、自然環境に恵まれ潮の香が漂う漁港の町に建てられている。近くに交番や学校もあり、社会資源にも恵まれ、開放的なホームである。運営者宅が隣接し、看護職員もいるため、近隣住民から緊急時の協力要請や高齢者についての相談を受けたりと地域に不可欠な存在である。災害対策も地域の消防分団とともに避難訓練を行い、ホームの緊急連絡網にも入ってもらうなど協力体制が話し合われており、地域との連携もとれ、利用者や家族の安心にもつながっている。個別ケアを目標にし、ホームの理念である「生きがいのある毎日」を実現するために個々の可能性を引き出し、理学療法士の指導のもと、身体機能低下予防のための筋力トレーニングを取り入れた個別のプランを作成し日々取り組んでいる。からだを動かすことが好きな利用者が多く、居室のカレンダーに印をつけて達成感を図り、生き生きとした生活を送っている。職員の体制にもゆとりがあり、利用者一人ひとりに密な関わりができることで質の高いケアの提供ができている。開設して3年が経ち、今後も更に地域に密着したグループホーム運営が期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

理念について地域との交流の重要性をうたったものを職員全員で話し合い作成するなど、前回の外部評価での改善課題については全員で話し合いが持たれ、改善できるものについてはすでに改善されているが、引き続き取り組み中のものもあり、今後に期待できる。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

今回の自己評価は職員の意見を聞きながら全員で取り組んだ。職員より、地域の子ども達との交流についての提案が出されるなど評価を活かし、改善に取り組む機会になっている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

2ヵ月ごとに運営推進会議を開いている。老人クラブ会長、地区民生委員、家族代表、行政関係者、管理者兼計画作成担当者などの参加があり、利用者の生活状況、サービスの状況、余暇活動報告、外部評価の結果報告などを行っている。行政からの情報などが家族や地域に役立っている。今後は幅広い参加者を検討中である。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

入居時の説明書類には相談窓口と行政などの苦情受付機関を分かりやすく明示している。家族との会話から要望などをくみとり、内容を伝達ノートに記載し職員全員で改善に向け話し合っている。家族からの要望で散歩が日課だった利用者に対して散歩を取り入れた個別ケアを行うなどサービスに活かしている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

地域の高齢者をホームに招待し、利用者との交流会を行ったり、ボランティアグループによる催し物があるときには地域の方々にも声をかけて遊びにきてもらうこともある。運営者宅が隣接し、看護職員もおり、近隣で緊急を要する出来事が発生した場合の協力場所としても対応している。災害時の協力も地元の消防分団や近隣の住民にお願いしている。今後は子ども達との活発な交流も検討中である。

2. 評価結果（詳細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は職員全員で話し合って地域とのふれあいの大切さをうたったグループホーム独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホールと台所の職員の目線に合わせた高さに掲示しており、理念に沿ったケアを目標に日々取り組んでいる。 理念の「生き甲斐のある毎日」を実現するため、筋力低下予防の個別のケアを実践し、利用者が達成感を味わえるように個別にカレンダーに印をつけている。利用者に浸透し、利用者にとっても日々の生きがいになっている。理念はパンフレット、重要事項説明書にも明記している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の高齢者をホームに招待し、利用者との交流会を行ったり、ボランティアグループによる催し物があるときには地域の方々にも声をかけて遊びにきてもらうこともある。運営者宅が隣接し、看護職員もおり、近隣で緊急を要する出来事が発生した場合の協力場所としても対応している。災害時の協力も地元の消防分団や近隣の住民にお願いしている。今後は子ども達との交流も検討中である。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員の意見を聞きながら全員で取り組んだ。職員より、地域の子ども達との交流についての提案があるなど、改善に取り組む機会になった。外部評価の結果は家族、運営推進会議のメンバーにも配布している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月ごとに運営推進会議を開いている。老人クラブ会長、地区民生委員、家族代表、行政関係者、管理者兼計画作成担当者などの参加があり、利用者の生活状況、サービスの状況、余暇活動報告、外部評価の結果報告などを行っている。行政関係者の情報などが家族や地域に役立っている。今後は幅広い参加者についても検討中である。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	機会を捉えては相談など行い、連携をとっている。利用者、家族、職員から相談があればいつでも応じられる体制は整えている。管理者が行政職にいた経緯もあり、密に連携を取りやすい関係にある。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	遠方の家族には領収証送付の際に手紙にて状況を報告している。その際、書ける利用者には手紙を書いてもらい同封している。また、利用料支払いの来訪の際に、状況報告など行っている。緊急の場合は電話にて連絡している。金銭管理は個々に出納帳を作成し、面会時に報告している。職員異動も面会時に紹介している。現在、不定期に発行しているホーム便りを定期的に発行することを検討中である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時の説明書類には相談窓口と行政などの苦情受付機関を分かりやすく明示している。家族との会話から要望などをくみとり、内容を伝達ノートに記載し職員全員で改善に向け話し合っている。家族からの要望を取り入れた個別ケアを行うなどサービスに活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は利用者にとってダメージになることを理解し、法人内異動はしない方針である。また、新任の職員が夜勤になる際は施設長が1ヵ月程度一緒に勤務し、指導している。		
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者、管理者は職員の育成の必要性を理解し、外部研修や他のグループホームでの実習など積極的な参加を促している。外部研修へは常勤、非常勤問わず新入職員を多く参加させ、レポート提出と職員会議にて研修報告を行っている。ホーム内勉強会も課題を見つけ、毎月職員会議の際に行っている。資格取得の支援も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	おおすみ地区グループホーム連絡協議会に加入しており、職員は交代で会に参加し、研修や交流を行っている。他のグループホームでの実習や研修にも参加し、職員同士交流を図り、情報交換など行い、業務意識の向上に努めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者と家族に見学に来てもらい、グループホームの雰囲気を見てもらったうえで入居してもらっている。入院中で見学に来れない場合は訪問し、面談して顔なじみの関係を作っている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を介護されるのみの立場に置かず、煮物やへちま料理、味噌作り、そば打ち、そばがきの作り方など教えてもらっている。また、利用者の発する昔のことわざで諭されたりしながら支え合う関係を築いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの生活歴、趣味、性格についての情報や日頃の表情や言動から思いや意向を把握し、本人本位に検討している。個々の生活習慣や過ごし方は、他の利用者に迷惑にならない限りなじみの暮らしが出来るように支援している。暮らし方の希望で「自分でお金を管理したい」との意向の利用者には家族と話し合い本人にまかせるようにするなど、思いや意向を出来るだけ叶えられるように対処している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向、職員の意見を考慮して本人本位の介護計画を作成している。個々に合わせて日常の機能訓練を取り入れ、目標とし、生き甲斐のある日々を送れるようなプランを盛り込んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は特に大きな変化がなければ6ヵ月で見直しを行っている。個別のファイルの記録をもとにニーズがずれていないかを確認し、家族などと話し合い現状に即した新たな計画を作成している。また、状態変化時や入退院後の見直しは都度行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診や法事、お寺詣りなど本人、家族の状況に応じた柔軟な支援を行っている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人家族の希望するかかりつけ医の支援を行っている。受診結果についてもかかりつけ医から直接聞くようにしている。また、薬はホームに直接届けてもらえるので、処方など間違いがないようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応についての家族との話し合いは、発生した時点で個々に話をしている。提携している協力機関とかかりつけ医との話し合いはできている。	○	重度化した場合や終末期の在り方についてはできるだけ早い段階から家族の意向を聞き、ホームとしてできる最大限の支援を職員全員で話し合い、指針の作成と話し合いの記録を残すことが望まれる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシー確保については声かけ、ことば使い、職員間の会話も配慮するように心がけている。職員採用時の個人情報保護についての誓約書もとっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、体調や希望に合わせた暮らしを支援している。起床時間も個人で異なり、起きてきた方から順次朝食もとってもらっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力に合わせて食材の下ごしらえ、配膳、片づけ、皿洗いなどを職員とともに行うなど、力を発揮する場面を作っている。ときには、今ある食材を利用者に伝え、何を作ればいいかアドバイスをもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に午前中で一日おきではあるが、利用者が希望する場合は毎日でも可能である。異性介助を拒否する利用者に対しては同性介助で対応し、安心して入浴できるように配慮している。また、カルキを抜く装置を取り付け、上がり湯をかけて皮膚のダメージが少なくなるように対処している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩、裁縫、草取り、歌をうたうなど、個々の楽しみごとの支援をしている。また、毎月、外出のレクリエーションを行っており、花見や季節の果物狩り、買い物ツアーなど気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、食材の買い物、ドライブなど、これまでの生活と同じように外出の機会を設けている。「散歩がこれまでも日課だった」という利用者は毎日散歩に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者、職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。すぐ近くには交番があり、利用者の安全対策として協力要請の声かけをしている。外出した際はさりげなく付いて行き、見守りで対処している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署立ち会いのもと、避難訓練を行っている。今年度は地域の消防分団の方々にも参加して頂き、非常口、出入り口などを示したホームの見取り図を渡し夜間想定でも行なった。また、緊急連絡網にも地域の消防分団の方に入ってもらい、協力体制を構築している。非常災害時の対策としてカセットコンロや備蓄（米、缶詰など）も準備している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に記録表を作成し、食事、水分摂取量を記録し、職員は利用者の状態を把握している。体重測定は疾病のない利用者は毎月1回実施している。個々の状態に合わせて食事形態を考慮し、栄養バランスについては栄養士のアドバイスをもらっている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	少々狭いリビングはくつろげるスペースを確保するため、種類の違うソファを置くなど工夫している。利用者によっては好みのソファがあり、指定席になっていることもある。浴室はすべりにくい素材を使用し、浴槽の床はすべり止めと手すりを設置して利用者が安心、安全に入浴できるようにしている。冬場の乾燥対策として洗濯物を廊下の手すりに干すなど工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や使い慣れた椅子、布団などが持ち込まれ、居心地良く過ごせるように配慮している。また、希望に応じて畳敷きも可能である。冬場は乾燥対策として、水の入ったペットボトルを鉢の代わりにし花をさして置いている。	○	居室のポータブルは、混乱を招く利用者以外は昼間の置き場所を検討し、清潔なイメージの居室作りが望まれる。